

令和6年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」交付申請（実績報告）関係様式

●R6年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

| 市町名 | 課題の類型1 | 課題の類型2 | 背景・現状・課題の詳細 | これまでの取組状況 | 左記課題の解決のために令和6年度に実施する具体的な取組 | 本事業で達成する目標（アウトカム） | 目標の達成度を測る指標 | 現状の数値 | 単位 | 本年度の目標値 | 本年度の実績値 | アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等） |
|------------|-----------|-----------------|--|---|--|---|-----------------------|-------|----|---------|---------|---|
| 252077_守山市 | ①学校運営上の課題 | 社会に開かれた教育課程への対応 | 教育課程の中で地域との連携は行われているが、地域と協働し、効果的に子どもに関わるということには課題がある。 | 各小中学校では、学習のゲストティーチャーや登下校の見守りでボランティアの方にお世話になっているが、地域の方と子どものことについて話す機会は少ない。今年度の取組で改善の糸口が見えてきた。 | ・市内7公民館の職員が地域と学校をつなぐ橋渡し役となり、全小中学校13校で地域との協働体制を構築する。 ・その中で、地域、公民館、学校が関わる機会を増やす中で事業の目的を共有し、子どもの成長に関して、それぞれの役割が明確になるようにする。 | ・各小中学校で各学年1回以上ボランティアに来てもらう中で話し合う回数が増え、事業の目標などを共有し、効果的に子どもに関わることができる教育課程を編成する。 | ボランティアに来てもらった回数。 | 13 | 件 | 90 | 90 | 3 事業の打ち合わせやボランティア募集をする中で地域、公民館、学校が関わる機会を増やし、事業の目的を話し合える土台を構築することができた。今後に向けては、話し合える関係の輪を広げ、ボランティアとも話し合える関係を築いていく。 |
| 252077_守山市 | ①学校運営上の課題 | 教職員の時間外勤務の是正 | 市内の教員の44%超が、月45時間以上の時間外勤務を行っており、教員の業務負担軽減による時間外勤務の縮減が課題となっている。 | 昨年度は、公民館と連携して地域との協働体制を構築したことで地域との連携が行われ、地域ボランティアによる新規の活動がモデル校で行われた。子どものより良い成長につながることも教員の働き方にもつながる可能性があることがわかった。 | ・市内7公民館の職員が地域と学校をつなぐ橋渡し役となり、全小中学校13校で地域との協働体制を構築する。 ・その中で、地域、公民館、学校が事業の目的を共有し、子どもの成長に関して、それぞれの役割が明確になるようにする。 ・各小中学校で各学年1回以上ボランティアに来てもらえるようにする。 | 学校・家庭・地域の役割分担の明確化により、地域との協働が進み、結果として、教員の業務負担が軽減する。 | 月45時間以上の時間外勤務を行う教員の割合 | 44 | % | 40 | 55 | 2 効果的な連携には至っていないため役割分担など負担軽減の実感には至っていない。しかしながら、事業に取り組む中で、教員とボランティアの役割分担が少しずつできてきた。 |